

# ヘブル語講座 アラカルト

## 【ザーハル】

主を「覚える、心に留める」を意味する

分自身や日々の出来事に当てはめて読むことは、結局のところ自分を食べているのであって、「主を覚えて食べる」ことにはならないのです。

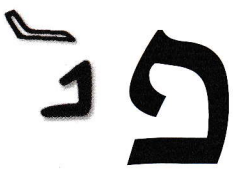
●「ザーハル」は「覚える、思い起こす、心に留める、記念とする」を意味する動詞です。ヘブル語は神が主体となる3人称単数が基本です。この動詞の初出箇所(創8・1)には、神が洪水によって地を新しくしようとしたとき、箱舟の中に入ったノアとその家族、およびすべての獣とすべての家畜を「覚えておられた」とあります。神は箱舟の中に入ってからさきから救われた者を決して忘れることなく、永遠に心に留めてくださる方です。「箱舟の中」には、「キリストの贖いを信じて救われている」ことを意味します。

●またこの「ザーハル」は、人が神を「覚える」ことにも使われます。私たちが「キリストにある」こと、「キリストにとどまる」ことが重要なことです。特にイエシュアが制定された「主の食卓」(ルカ22・19〜20、1コリ11・23〜26)は、主と私たちの婚約式を意味しています。正式な婚礼はやがてキリストが空

中再臨される携挙のときですが、それにあずかる者がいつも「主を覚える」とは至極当然のことです。イエシュアの口から語られた「霊であり、いのち」(ヨハ6・63)であることは「食べる」ことが「主を覚える」ことであり、主を食べることによって主と一つになるのです。教会で聖餐にあずかっているからと安心してはいけません。また日々のデイポーションをしているからと安心してもいけません。「主を食べ、飲む」ことを、初代教会は「パン裂き」と称して毎日していました。彼らは、イエシュアの語られた「御国の福音を日々食べ、公生涯で語られたのは、徹頭徹尾、御国(神の国)について」であったからです。ですから、私たちが自分のたましいを元気づけるために聖書のことばを読んでいるなら、イエシュアのことばの本来の意味からかけ離れ、「主を食べる」ことにはなりません。すべてを自

「女」は「イスラエル」、あるいは「教会」を啓示しています(ヨハ5・39)。また「覚える(ザーハル)」が名詞になると「ザーハル」となり、「男」を意味します。この初出箇所は「神は人を「自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された」(創1・27)です。ここで「男と女」は生物学的な意味ではなく、「最後のアダムである「イエシュア」を啓示しています(ヨハ5・39)。また「女」は「イスラエル」、あるいは「教会」を意味します。イスラエルと教会はいずれも女性名詞です。「男と女」のかかり(結婚)によって、「神と人がともに住む」という神のご計画が成就するのです。それは、創世記の冒頭「はじめに」(ベレーシット)に隠されている「死からよみがえられた初穂としてのキリスト」によって「再創造される」のです。つまり、この神のご計画こそが聖書全体を貫く根幹のテーマであり、「御国の福音」といえます。そのような視点で、キリストを日々「覚える」べきなのです。(銘形秀則)

## はじめに神は...

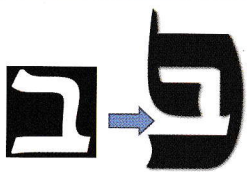


Pey / Fey

ペーは人の「口」を表した文字です。



それは、神に向かって開く口で、神を呼び求める「声」を意味しています。



ペーの中には「家、国」を意味する文字

ペーが隠されていて



ます「神の国」を求め、

(作・神田満)

### 編集後記 (史料・機関誌委員会から)

一年二回のイースターも無事終えて、新年度を迎えました。学生も社会人も、世の中全体が新たな旅立ちや環境の変化に出会い、期待と不安の混じる心境の季節ですね。

桜前線も日本縦断、色々な旅立ちを祝福したでしょうか。さあ、これから、夏に向けての新緑の季節!

教会内の交わり、地域への伝道、そして夏の連盟修養会にも、更に積極的に参加して、神の家族の絆、良きお交わりができるように、共にチャレンジしてまいります。

### 発行者

宗教学人 日本神の教会連盟

### 発行者

東京都練馬区羽沢二丁目二一九 練馬神の教会内

### 編集者

相原典之

### 編集者

沼 慎一

福岡県筑紫野市二日市北二丁目一八一六

日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会

電話 & FAX 〇九二(九二四)五〇九八